

TOM

東京音楽大学付属 オーケストラ アカデミー

2022年度開講、国内外のオーケストラで活躍することができる高度な演奏能力を持つ音楽家を育成するアカデミー。音楽監督に尾高忠明氏を迎え、東京音楽大学の教授陣、国内外で活躍する音楽家により、技術、演奏能力の向上を目指す新しいオーケストラ奏者養成機関です。



オーケストラで 活躍できるプロに

● 演奏会を通して、経験豊富な指導陣と共に、オーケストラで必要な能力を学ぶ 2022年度 春学期の様子



第22回 別府アルゲリッチ音楽祭2022 (東京オペラシティ公演)

マルタ・アルゲリッチ氏とシューマンの《ピアノ協奏曲》で共演。チョン・ミン指揮の情熱的な指導のもと、アカデミー生たちは曲を仕上げていきます。開講直後での大舞台でしたが、ブラームスの《交響曲第1番》、ベルリオーズの《ローマの謝肉祭》も演奏し、世界的な音楽家との共演は貴重な経験となりました。

©藤本 史昭

第58回 東京音楽大学 芸術祭 参加公演 (100周年記念ホール)



管楽合奏

宮本文昭先生の指揮&トークで、モーツァルトの《セレナードハ短調 K.388/384a》などを演奏しました。アンコールは特別編成の《ラデツキー行進曲》。



弦楽合奏

指揮者なし、アカデミー生だけで、レスピーギの《リュートのための古風な舞曲とアリア 第3組曲》、チャイコフスキーの《弦楽セレナード》を演奏しました。

オーケストラ・アカデミー演奏会 7月 (TCMホール)



演奏した曲目はモーツァルトの《ピアノ協奏曲20番》第1楽章（ピアノ：安並貴史さん）、ベートーヴェンの《交響曲第7番》第1楽章。質の高い演奏を目指し、細かく、丁寧に、全ての音が魅力的な音楽になるように、宮本文昭先生の指揮で、何度も繰り返して練習します。弦楽器の先生も合奏に入り、オーケストラでの演奏の仕方を示していただきます。

● 指導陣からのメッセージ

水野 信行 先生（ホルン）

オーケストラというのはひとりでやるものではなく、共同でひとつのものを作っていくものです。「周りを見る。周りを聴く。もちろん自分もアピールする」というものをすごく考えないと、まとまりは出てこないと思います。それができた時、オーケストラの楽しみにつながるかと思います。また、指揮者によって要求が変わってくるので、いろいろな引き出しをもち、要求に対してどの引き出しから出したらいいかを考えながらやらないと、その場に合わないものが出てきてしまい、やりにくくなってしまいます。周りと合わせる。そして自分をアピールする。それらを楽しみながらやっていただきたいと思います。



荒井 英治 先生（ヴァイオリン）

アカデミーでは、皆さんと濃密な時間を過ごし、できる限りのノウハウをお伝えと思っています。ですが、皆さんに一番お伝えしたいのは、「受け身であってはいけない」ということ。オーケストラというのは生きたものです。毎回の練習時間を本当に有意義なものにしないと、成果は上がらないと思います。私たちが伝えることから、皆さんはさらに発展してやらなければいけない。つまり、ディスカッションをする。皆で一つひとつ話し合い、わからなければ指導教員に聞く。それらを積極的にやることで、いい成果につながると思います。

山本 裕康 先生（チェロ）

本アカデミーで教えてくださる先生方の多くは、僕の若い頃に様々な場所で様々な事を教えて下さった大先輩、先生です。その教えを元に僕自身が30年近くオーケストラで弾いてきて考えたこと、さらには教えられた事を皆さんに、是非お伝えしたいと思っております。そして、皆さんの若い世代の感性や考え方を逆に教えて欲しいとも思っています。一緒に学び一緒に音楽について語り合いたい、そんな気持ちでおります。1年間、自分独りでオーケストラスタディを練習してもその曲をオーケストラの中で1回弾く事には敵いません。その機会を是非体験して欲しいと願ってます。

宮本 文昭 先生（オーボエ）

プロのオーケストラはリハーサルが1回だけ、ということが多いです。たった1回の練習でゲネプロ付きでやるというのは、とても過酷なことです。しかし、オーケストラ・アカデミーは練習の時間が長く、たくさんディスカッションをする時間がある。人間を観ることができる。その中で折り合いをつけるために、意見をぶつけ合い、よりよい所に自分たちをもっていく。ここが大事なんです。自分たちができないことを時には指摘されるでしょう。それを直視し、克服し前進することはすごく大事なことです。僕のオーケストラ人生を振り返ると、失敗から学べたことがほとんどです。うまくいかないことこそ、自分が前進できるチャンスなんです。だから怖がらないで、自分の失敗を認めてください。そしてどうしたら克服できるかを、ここにいる先生方に相談してください。熟成された演奏がリハーサルの時点からできるようにするために、このオーケストラ・アカデミーで一生涯懸命練習し、わからないことや興味があることがあれば我われにたくさん聞いてください。私たちは誠心誠意教えます。「楽譜どおりに演奏していますよ」なんてことを絶対に言わないでほしい。演奏に対して意思やアイデアをもって、プレゼンができるくらいになってください。そして、オーケストラの楽しさを感じてください。



● アカデミー生の声



日比 ありささん
（ヴァイオリン）
愛知県立芸術大学出身

新設されたばかりだからこそ、何かにとらわれることなく新たなことに挑戦できるのでは、と思い、このアカデミーを選びました。ここでは各パートの役割、ソロで演奏するときとは違う、オーケストラの中での音の鳴らし方、奏法など、今まで大学の授業の一環だったオーケストラを、より広く深く詳しく学ぶことができました。どの先生方も楽器の垣根を越えて熱心に指導して下さる、そんな環境にあります。このアカデミーでできるだけ多くのことを吸収し、この先オーケストラに所属できた際にはここで学んだことを最大限発揮できる、そんな団員になれたらと思っています。



阿佐 遥馨さん
（クラリネット）
東京音楽大学出身

私が東京音大付属オーケストラ・アカデミーに進学を決めた理由は、素晴らしい先生方がいるこの環境でオーケストラを学び上手になりたいと心から思ったからです。学部生の頃はオーケストラが専門ではなかったのですが、授業を通してオーケストラの楽しさも大変さも知り自分の未熟さを痛感する時もありましたが、たくさんの楽器が集まり1つの音楽を作り上げる楽しさと素晴らしさ、曲を通して作曲者や時代背景などを学べる魅力を知りました。オケ実習や個人レッスンでは先生方からたくさんの経験談などを聞いて自分の世界観がとても広がりました。

● 実践的なカリキュラム

個人レッスン

オーケストラスタディなどを中心として、オーケストラの実践の場やオーディションを想定した実技レッスンを行います。オーケストラで長年活躍している先生から、正確で表現力の豊かな技術を学びます。

オーケストラ実習

年5回の演奏会を通して、さまざまな作品を演奏し、オーケストラで演奏するための技術を学びます。

室内楽実習

オーケストラの基本であるアンサンブル能力を、室内楽を通して身につけます。少人数での演奏はより自主性と協調性が必要となります。

模擬オーディション

実際のオーケストラのオーディションを想定してホールで行います。協奏曲やオーケストラスタディを演奏し、本番の緊張感・空気感に少しでも慣れるようにします。先生のアドバイスだけでなく、アカデミー生同士で聞き合い意見を交わします。



模擬オーディションの様子@TCMホール



管打楽器分奏の様子

【写真撮影】有田 周平

● 入学試験

2023年度 入学試験日程 2023年2月5日（日）中目黒・代官山キャンパス

【募集人員】各楽器 若干名

【出願資格】

大学卒業者(大学卒業見込みの者を含む)以上及びこれと同等以上の者で、本学付属アカデミーの求める演奏水準を有し、2023年4月1日時に、30歳未満の者。

※ 詳しくはHPで発表される募集要項をご覧ください

● 2023年度 オーケストラ演奏会スケジュール・指揮者（予定）

2023年

5月14日(日)

荒井 英治

6月4日(日)

高関 健

7月9日(日)

水野 信行

10月15日(日)

尾高 忠明

11月19日(日)

ユベール・スダーン



©s.yamamoto



©K.Miura



©Martin Richardson



©N. Ikegami

● お問い合わせ

東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス（東京都目黒区上目黒1-9-1）

tcm-oa@tokyo-ondai.ac.jp

